

平成 20 年度環境省北海道地方環境事務所請負業務

平成 20 年度環境カウンセラー研修企画検討等業務 実績報告書



特定非営利活動法人
北海道環境カウンセラー協会

目次

1. はじめに	2
2. 業務の目的	2
3. 業務の概要	2
4. 業務の詳細	3
(1) 検討委員の選出及び検討会の設置	
(2) 第1回検討会の開催	
(3) 研修の企画・調整及び事前準備	
(4) 研修の開催	
(5) 研修の概要	
(6) 第2回検討会の開催	
(7) 本事業の総括	

巻末資料

資料1 配布資料

資料2 受講者アンケート集計結果

1. はじめに

特定非営利活動法人北海道環境カウンセラー協会は、平成 20 年度環境カウンセラー研修企画検討等業務仕様書（以下「業務仕様書」）に基づき、研修の企画・運営を行った。本報告書は、実施した業務内容を報告するものである。

2. 業務の目的

本業務は、環境保全に関する豊富な知識や経験を持ち、環境保全活動に取り組もうとする市民や事業者の相談に乗るとともに、自ら環境保全活動を実践し、環境パートナーシップ作りをすることを期待される人材（環境カウンセラー）を対象として、環境カウンセラーとしての資質・能力の向上や情報交流によるパートナーシップの形成を図ることを趣旨として開催する「環境カウンセラー研修」（以下「研修」）について、より効果的に行うための企画、調整、検討などの業務及びその事前準備を行うとともに、開催・運営することを目的とする。

3 業務の概要

（1）検討会の設置・運営

業務仕様書に基づき、北海道地区における具体的な研修内容を検討する検討会の設置及び運営を行った。

検討委員を 3 名選定し、検討会を 2 回開催した。

検討委員との連絡調整、検討会会場の手配、配付資料など検討に必要と思われる文書の作成、検討会の進行、記録などを行った。

（2）研修の企画・調整及び事前準備

検討会の意見を勘案の上、研修がより効果的となるよう検討・修正を行い、カリキュラムなどの作成及び講師の選定などを行った。

検討結果を実施計画（案）として取りまとめ、環境省北海道地方環境事務所へ提出した。

配布資料やアンケートなどの内容について、講師及び環境省北海道地方環境事務所と調整を行い、作成した。

研修会場の手配及び講師との連絡など、研修を開催するにあたっての事前準備や各種調整を行った。

（3）研修の開催・運営

上記により決定した実施計画に基づき、研修を開催した。

研修の運営にあたっては、会場設営、受付及び講師接遇などを行うとともに、受講者に対してアンケートを実施した。

(4) 委嘱・支払業務

本業務を実施するにあたり、検討委員及び講師への委嘱手続き、謝金・旅費の支払業務及び、研修会場の経費の支払業務を行った。

4 業務の詳細

(1) 検討委員の選出及び検討会の設置

① 検討委員の選出・委嘱

業務仕様書によると、検討委員を3名程度選定し、検討会を2回程度開催することとされている。そのため、当協会では、①広く北海道の環境情報を取り扱い、幅広い人材を認知している財団法人北海道環境財団、②環境関係における市民活動のネットワークに詳しい、中間支援組織の北海道市民環境ネットワーク、③実際に環境教育や環境保全活動を実践している市民活動団体、から各1名を選定することとした。検討委員については、昨年度の成果や課題などを反映させるため、昨年度の委員が留任するのが妥当であろうとの考えを基に、環境省北海道地方環境事務所担当官と協議し、以下の3名を検討委員として決定した。

【検討委員 所属・氏名】

財団法人北海道環境財団	情報交流課長	内山 到 氏
北海道市民環境ネットワーク	事務局長	宮本 尚 氏
石狩キッズ	代表	田中 裕紀子 氏

当協会は以上の3名に対し必要な委嘱手続きを行い、了承を得た。

② 検討会の構成・開催時期

検討会は、上記①の検討委員3名のほか、主催者として環境省北海道地方環境事務所から2名、事務局として当協会から2名により構成することとした。

開催時期については、研修内容の検討及び講師選定などのため事前に1回と、研修実施のふりかえりとして事後に1回の計2回開催することとした。

(2) 第1回検討会の開催

◆日時：平成20年7月16日（水）15：00～17：00

◆場所：北海道環境パートナーシップオフィス

◆出席者：（敬称略）

（検討委員）内山 到（財団法人北海道環境財団 情報交流課長）

宮本 尚（北海道市民環境ネットワーク 事務局長）

田中 裕紀子（石狩キッズ 代表）

（主催者）伊藤 正市（環境省北海道地方環境事務所環境対策課 課長補佐）

今村 和典（環境省北海道地方環境事務所環境対策課 企画係長）

（事務局）藤田 郁男（特定非営利活動法人北海道環境カウンセラー協会 顧問）

山田 剛義（特定非営利活動法人北海道環境カウンセラー協会 理事）

座長を当協会の藤田に決定し、検討会を進行した。

◆議 題：平成 20 年度環境カウンセラー研修の開催全般についての検討

① 主催者より開会挨拶

昨年度の北海道の登録者は 3 名であった。全国的にも事業者部門が多い傾向は変わらない。環境サミットと言われた「G8 北海道洞爺湖サミット」も終わり、環境保全活動をされている皆様と協調して、市民に寄り添った環境行政を進めたい。環境カウンセラー研修も大きな事業の一つとして実施する。十分なるご審議をお願いしたい。

② 研修実施計画の検討にあたり、昨年度の実施状況やアンケート結果などを踏まえ、各項目に従ってフリーディスカッション

i) 全体としての基本的な内容、運営については、昨年度のアンケート結果（「良くない」はゼロであった）から、昨年度に準じて進めることで了承を得た。

ii) 開催日時、場所について、昨年度は 10 月 29 日（月）に札幌市環境プラザで実施している。本年度も昨年度に準じ、札幌市環境プラザの事前申し込み状況をあたった。週末、土日は申し込みが多いことから候補日としては外し、主催者側のスケジュールなども考慮した結果、11 月 5 日（水）を基本に、札幌市環境プラザ側と折衝していくことで了承を得た。

iii) 全体講演及び講義の内容について、下記のとおりとすることで了承を得た。

- ・全体講演「環境行政の動向について」は、環境省北海道地方環境事務所から G8 サミット後の状況を見据え、焦点を絞って説明する。
- ・講義「環境カウンセラー登録制度について」は、新規登録者だけでなく、それ以外の者も全員受講するスケジュール構成とする。

iv) 基調講演の内容と講師について

基調講演の内容について、本年度は建物を熱環境的な視点で考察し、暮らしと密着した建物の話題を取り入れたいと考え、計画した。そこで、事務局案としてその分野の専門家を講師として推薦し、了承を得た。

タイトルは「建物と温暖化—北欧・西欧の対応と比較して（仮題）」とした。講師は、北海学園大学工学部建築学科教授である、佐々木博明氏に依頼することとした。

タイトル、講演時間、それらを踏まえた講演内容など、今後、佐々木氏と詰めていくこととなった。

v) 基調講演を一般公開とすることについて

昨年度のふりかえり検討会でも意見のあった、基調講演を一般公開とすることについては、午前のプログラムを全て一般公開とすれば、スケジュール上も可能と考えられる。

午前は一般の方と環境カウンセラーの講演会、午後は環境カウンセラー向け研修会の形で実施計画を詰めることとした。

vi) グループディスカッションについて

事務局より叩き台として「環境街づくり・地域づくり」を提案し、多くの意見で検討いただい

たが、時宜を得たテーマとして、今回のミッションは下記で満場一致をみた。

「2050年にCO₂を半減させるため、環境カウンセラーとして何ができるか」

③ その他フリーディスカッション

- ・ヒートポンプなど最近では専門用語ではなく、一般化してきた。基調講演で、省エネルギーについてもっと詳しく聞けるのではないかな。
- ・基調講演自体は短めにして、その分質問時間を多くとって討議してはどうか。
- ・最初のオリエンテーションはともかく、環境行政の話は一般の人も聞きたいと思う。
- ・基調講演で質問討議を長くすると、リード役が必要ではないか。質問もいくつか用意しなければならないと考えるが。
- ・「家」をイメージして、改修のポイントなどを討論するのも一考である。
- ・午前のプログラムを一般公開とすると、別に案内・広報をしなければならない。
- ・新聞に載せてもらえるか。
- ・グループディスカッションはメンバーを知る機会でもあり、名前と自分の専門又はやりたいことを紹介し合う。これによりグループ分けをすると良い。
- ・上記のことを紙に書いて、摸造紙などに貼って周知すると良い。
- ・自己PRの発表にタイムオーバーの人も多いので、タイマーなどを用意して時間管理を行う必要があるのではないかな。
- ・環境総合展の北海道地方環境事務所ブースで来場者が楽しんでいた「エコトランク」のデモも盛り込めないか。
- ・1グループの人数を制限しないで、討論したいテーマに参加する方が良いと思う。
- ・テーマ毎にまとめ役が必要である。
- ・テーマ毎にキーワードを付けて、討議が広がり過ぎないようにしたほうが良い。
- ・ミッション→問題点→カウンセラーとしての方策→（結果）
- ・これは未だ“フォアキャスト”であるが、“バックキャスト”で考える。

【テーマとキーワード】

テーマ：暮らし

キーワード：暖房、給湯、住宅、ごみ、食糧自給率

テーマ：エネルギー

キーワード：化石燃料、運輸、自然エネルギー、物流インフラ
コンパクトシティ

テーマ：森林

キーワード：湿原保全、国産材活用、木質バイオマス

テーマ：廃棄物

キーワード：リサイクル、バイオマス利用、リデュース

この中より3テーマを選択し、合計3グループでの討論を計画することとした。

(3) 研修の企画・調整及び事前準備

① 研修プログラムの作成

第1回検討会では承された講師候補者（北海学園大学工学部建築学科教授 佐々木博明氏）に正式依頼をして、タイトルを少し変えて承諾をいただいた。

日程については、関係者と調整し、11月5日（水）とした。

検討会の内容を踏まえて実施計画（案）を作成した後、環境省北海道地方環境事務所担当官と協議し、本研修スケジュール案が確定した（次ページ参照）。

② 事前準備

- i) 会場は札幌市環境プラザとし、必要な手続きを行った。
- ii) 講師との連絡調整を図り、必要な機器や資料の準備を行った。
- iii) グループディスカッションのメインテーマは「2050年にCO₂を半減させるため、カウンセラーが出来ること」とし、「暮らし」「エネルギー」「森林」の3グループのファシリテーターは、当協会の理事が担うこととした。
- iv) 当協会会員に対し、本研修の参加を呼びかけた。
- v) 午前の全体講演と基調講演を一般公開することになったため、ホームページやメールニュースなどで周知した。
- vi) 環境省北海道地方環境事務所と協力し、受講申込者に対し、受講決定通知の発送作業を行った。（申込者は30名）
- vii) 受講者アンケートを環境省北海道地方環境事務所担当官と協議の上、作成した。

(4) 研修の開催

研修は、11月5日（水）に「札幌市環境プラザ 環境研修室」で開催した。受講者は最終的に29名となり、うち新規登録者向け講義対象者は3名であった。

受講者名簿については巻末資料に記載している（午前の一般聴講者4名の氏名は記入していない）。

平成 20 年度環境カウンセラー研修スケジュール(北海道地区)

11月5日(水)

札幌市環境プラザ 環境研修室 1・2

午	10:00～	開会式・オリエンテーション		
	10:20	主催者ご挨拶		
	10:20～ 10:55	全体講演 「環境行政の動向について」 北海道地方環境事務所職員による説明		
		休憩(5分間)		
前	11:00～	基調講演		
	12:35	「建物とエネルギー 北欧、西欧の対応と比較して」 (講師:北海学園大学工学部建築学科 大学院工学研究科教授 佐々木 博明氏)		
	12:35～ 13:20	昼食・休憩		
午	13:20～	講義		
	13:35	「環境カウンセラー登録制度の説明」 北海道地方環境事務所職員による説明		
		休憩(5分間)		
後	13:40～	グループディスカッション		
	15:20	「2050年にCO ₂ を半減させるため、カウンセラーが出来ること」		
		テーマ1:暮らし (キーワード) 暖房、給湯、住宅、 ごみ、食糧自給率	テーマ2:エネルギー (キーワード) 化石燃料、運輸、 自然エネルギー、物流 インフラ、コンパクトシ ティ	テーマ3:森 林 (キーワード) 湿原保全 国産材活用 木質バイオマス
		休憩(5分間)		
	15:25～ 16:25	グループディスカッションの発表 各グループによる発表(質疑を含めて20分)		
16:25～	アンケートの記入			
	閉会式<修了証交付>			
	16:45	終了、解散		

※午前のプログラムについては、環境カウンセラーだけでなく、申し込みのあった一般市民の聴講も可とします。

※受講決定通知書は、申し込みのある方に必ず送付しますので、申し込みをせずに当日直接会場に来られても受講出来ません。

(5) 研修の概要

◆開催日時：平成20年11月5日（水） 10：00～16：45

◆開催場所：札幌市環境プラザ 環境研修室1・2

◆受講者：29名（環境カウンセラーとしての受講者のみ。このほか、「全体講演」及び「基調講演」の一般聴講者が4名）

【議事次第】

10：00～10：10 開会式・オリエンテーション

総合司会・オリエンテーション
環境省北海道地方環境事務所
環境対策課課長補佐 伊藤 正市 氏



10：10～10：15 開会挨拶

所長代理
環境省北海道地方環境事務所
統括環境保全企画官 竹安 一 氏



(挨拶要旨)

洞爺湖町での「環境サミット」は、無事終了しました。

本年のサミットを契機に、北海道内の地球環境保全を含めた環境活動の一層の活性化・活発化を皆さんと一緒に盛上げていきたい。

当事務所としても、環境カウンセラーの皆様のご支援をいただきながら、展開していきたいと考えている。

10：15～10：55 全体講演「環境行政の動向について」

環境省北海道地方環境事務所
統括環境保全企画官 竹安 一 氏



- 1 各国の削減約束及び最新時点の達成状況
- 2 平成 20 年度の動き
- 3 改訂京都議定書目標達成計画の骨子
- 4 地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律について
- 5 環境・気候変動分野の成果
- 6 低炭素社会づくり行動計画（平成 20 年 7 月 29 日）
- 7 排出量取引の国内統合市場の試行的実施について
- 8 カーボン・オフセットについて



10 : 55～11 : 00 休憩

11 : 00～12 : 35 基調講演「建物とエネルギー 北欧、西欧の対応と比較して」

北海学園大学工学部建築学科
 北海学園大学大学院工学研究科
 教授 佐々木 博明 氏



(講演要旨)

建築といっても、いろいろな分野があり、その1つが建築環境である。

建築環境の中に、「音」「熱」「光」「空気」があり、私は「熱」の分野で省エネルギー、暖かい建物、建築設備を専門としている。快適性を損なわずにエネルギー消費を下げる必要がある。

北欧、主にスウェーデン、西欧はドイツ・イギリスと北海道を対応させたい。

1. 温暖化防止に向けての周りの動き

環境省、経済産業省、国土交通省が相乗りで推進している。

省エネ動向 1—住宅の省エネ基準と設備機器を含む新制度を構築中。

省エネ動向 2—CASBEE 建築物総合環境性能評価システムを施行し、S、A～Cクラスで評価している。大型建物から中型まで広げていく。戸建て住宅にはCASBEE すまい/戸建てを運用。諸外国でも同様の環境評価があるが、日本は優秀であると言われている。



2. 諸外国の新住宅動向

スウェーデン：サステイナブル建築外装材は、耐用年数の長い、硬い木材を使用している。エネルギー消費は 150kwh/m₂y（暖房＋給湯＋照明）であり、札幌の次世代住宅基準である。ゴミ→バイオガス→電気で、エネルギー標準は電気である。厨房フードを低く設置し、補修効率を上げる。換気による熱排出を低減する。外壁の断熱基準は0.3w/m₂Kで、日本の次世代基準は0.35w/m₂Kである。断熱性能が良いので、暖房の温水温度をレジオネラ菌死滅の限界まで下げる。

ドイツ：太陽光発電パネル使用政策として、国をあげて推進している。設置補助と電力会社の余剰電力買い上げ価格の政府指導が後押ししている。外装材は、光を通すが熱を通さない製品の使用を奨励している。

イギリス：ゼロエネルギー住宅。太陽光発電、熱交換自然換気、温室付設、自然素材と高断熱壁構造。

3. 日本・北海道の住宅

核家族化が進み、全国平均→2.6人、北海道→2.3人（エネルギー原単位が大きい）

1世帯の年間消費エネルギーは、関東平均で41GJ（暖房23.6%、給湯39%）、北海道平均は68GJ。木造戸建ては103GJ（暖房68%、給湯17%、照明14%）

4. 北海道の住宅設備の動向

太陽光発電、ヒートポンプ、無暖房住宅（壁断熱の厚さ335mm）、ゼロエネルギー住宅
*高断熱→壁・床の表面温度上昇→室内の上下温度差小→暖かい→快適性増加
換気は回転型熱交換換気装置→本体露出型（メンテナンス考慮）

ヒートポンプは自然冷媒、炭酸ガス使用の給湯器（高効率、高温90℃）及び、エアコンディショナー無暖房住宅はエネルギー消費量15kwh/dayであり、平均電力使用量（97kwh/day）と比較すると、従来の1/5以下である。

販売価格は従来型より500～600万円高い。しかし、スウェーデンと肩を並べる省エネ性能である。

ゼロエネルギー住宅（モデルは手稲にある）は、真空断熱材と太陽エネルギーを使用しており、7kwh/dayをコンセプトとして現在販売中である。価格は5,700万円で、違う客層をねらいとしている。

5. 今後の潮流

アジアにおける技術と思想の交換

国立競技場、鳥の巣、国立大劇院、中国中央電視台など素晴らしい。

Only One Earthで心構え、思想を共有し、お互いの重要性を繰り返し説明し、理解を深めあうことが重要であると考えます。

12:35～13:20 昼食・休憩

13 : 20～13 : 35 講義「環境カウンセラー登録制度について」

環境省北海道地方環境事務所
環境対策課企画係長 今村 和典 氏



- 1 環境カウンセラーとは
- 2 カウンセリング活動の流れ
- 3 環境カウンセラー登録者検索について
- 4 環境カウンセラーに期待される役割
- 5 登録後の手続きについて
- 6 登録後にやらなければならないこと
- 7 活動実績報告書の提出先
- 8 カウンセラーの方へのお知らせなど
- 9 メーリングリストのご紹介
- 10 問い合わせ先
- 11 制度説明の終わりに



13 : 35～13 : 40 休憩

13 : 40～15 : 20 グループディスカッション
「2050年にCO2を半減させるため、カウンセラーが出来ること」

進行：特定非営利活動法人
北海道環境カウンセラー協会
理事 山田 剛義



グループの構成は、受講申し込み段階で希望を書いてもらい、編成した。各グループ 10 人程度になり、それぞれ進行役を決め、テーマに沿って議論を進めた。

(ねらい)

京都議定書による CO2 削減のために行動が開始された今日、更に先を見通してのバックキャストに

よる身近な環境問題を共に考え行動する、環境カウンセラーの意識の高揚をねらいとした。

環境活動の中では、多くの人や団体の意向を表示させ、テーマのねらいに向けて行動をすることが出来る「コーディネート力」が必要になる。グループディスカッションを行うことでその力が養成されること、日頃は遠く離れている環境カウンセラー同士のコミュニケーションを図ることもねらいとした。

特に、2050年までにCO2を半減させるという目標に向かって、効果的な方向性を導く力が要求される。日常の事例を基に、各グループがKJ法などを活用しながら、ディスカッションを行った。

3グループに分かれて、それぞれのテーマである「暮らし」「エネルギー」「森林」について、ディスカッションを行った。

以下、各グループにおける議論の要点を記載する。まとめの発表時に使用したKJ法図解は整理して15ページから18ページに添付している。

第1グループ「暮らし」

ファシリテーター：吉迫 勝意（当協会理事）

メンバー：岡崎 朱実、藤本 倫子、江本 匡、西村 睦子、佐藤 二三男、伊藤 靖友、中田 光治

自己紹介で、各自どのような活動をしているかを話した。福岡県福岡市から本会場を希望し、受講した藤本さんの年齢を超えた意欲に敬服した。

暮らしの中で何が出来るかを中心に話し合われた。

市民と社会とを結び、伝え続けることの大切さと、「つなぎ役」としての環境カウンセラーの働きが話し合われた。

50枚余りのカードが書かれ、それを基にKJ法の図解を作成した。



第2グループ「エネルギー」

ファシリテーター：東 靖友（当協会理事）

メンバー：小嶋 章夫、山田 剛義、小林 正直、尾寄 耕策、大山 仁美、高橋 修治、藤田 佳久
新保 留美子、稲葉 秀一、岡野 裕幸

自己紹介後、エネルギー問題は化石燃料が枯渇へ向かう必然性を出来るだけ遅らせる方策が命題になることを確認した。その上で、活発な話し合いができ、実のあるディスカッションとなった。

また、「エコアクション21」の企業への働きかけや、新製品の開発、海外の開発途上国に対する新エネルギー技術の導入支援など、国内的視点だけでなく世界的視点で行動することの大切さを確認できる33枚のカード



を基に、KJ法の図解を作成した。

第3グループ「森林」

ファシリテーター：横山 武彦（当協会理事）

メンバー：関尾 憲司、杉山 伸一、藤田 郁男、福士 正明、野中 俊文、牧 賢吾、山澤 光弘

自己紹介後、日頃各自が考えていた森林の重要性と問題点、解決策などのカード 60 枚余りを作成し、それを基に KJ 法の図解を作成した。

市民部門の環境カウンセラーが多く、より具体的でアピールの出来る手段と手法が話し合われた。

樹木医の環境カウンセラーが参加しており、森林の営みの多様な姿を教えてもらうなど、大きな収穫になった。

森林の現状を知り、環境教育の普及や湿原の保全、情報共有など、日常では気付くことの少ない事柄が話し合われた。



15：20～15：25 休憩

15：25～16：25 グループディスカッションの発表

<第1グループ「暮らし」の発表>

・環境と経済が両立するためには、その仕組みや制度の確立が必要である。

・子どもの教育には多様なメニューが必要である。

・人はインセンティブがなければ動きが鈍い。理念で分かっても行動に結び付けられないので、人々のライフスタイルを転換する事の大切さを市民に伝え続けることが必要である。

・環境カウンセラー同士が連携し、理念や活動目標を分かりやすくアピールする。行政に向かって政策提言するなど「つなぎ役」として行動することが大切であることが確認できた。

・環境カウンセラーの役割は「活動への支援、補助、誘導」などで、そのためには「メリットの伝達」が大切である。広く普及するためには「3歳からの環境教育（スウェーデン）」の心構えが必要である。日常生活、家庭からの環境実践を習慣付ける仕組み作りが必要である。

・出来ることから始め、具体的な目標を掲げ行動することが必要である。



<第2グループ「エネルギー」の発表>

- ・自然エネルギーの普及には、電力会社が自然エネルギーの買取価格をアップする仕組みが必要である。
- ・省エネや節電も「責任者」が必要で、全事業者に対し、環境保全活動への義務化が必要である。
- ・まだ資源化されていない「鉱山」「鉱害」「廃棄物」の新エネルギーへの転換など、視点を変えることが必要と考えられる。
- ・新エネルギーでは「小規模発電」「自然エネルギー」「木質資源」などの有効活用が必要である。
- ・技術革新と住民の努力が大切で、新製品の開発が特に望まれる。エネルギー資源の乏しい日本では、何よりもこの事を推進する仕組み・システムが必要である。
- ・「排出権の海外取引のお金で国内支援を行うこと」及び「国内の排出権取引の重視」を国に望みたい。



<第3グループ「森林」の発表>

- ・森林には「貴重な生物と多様性」が見られる場である。この生物の「いのち」を通して、人類の生存を考える視点が必要である。そのためには「森の成り立ちを知る」「森の真の役割は何か？」など、環境教育の充実と普及が大切である。森林の現状を知ること、山と海とをつなぐ「川」「湿原」の保全の現状を知ることから始める必要がある。
- ・バイオマスの潜在エネルギーを引き出す方策やシステムの構築と、寒冷地でなくては出来ない「泥炭」のエネルギー化への試行、間伐材の有効活用とバイオマスリサイクルを地元企業で活用することなどが必要である。その前提として、「森林」をキーワードとしたネットワークを構築・強化し、情報共有を図っていく必要がある。
- ・「森林施業の作業道の開削、土止め育林の保全」や「湿原周辺の植林により水質を確保する」など、身近なことから考え、行動することが期待されている。



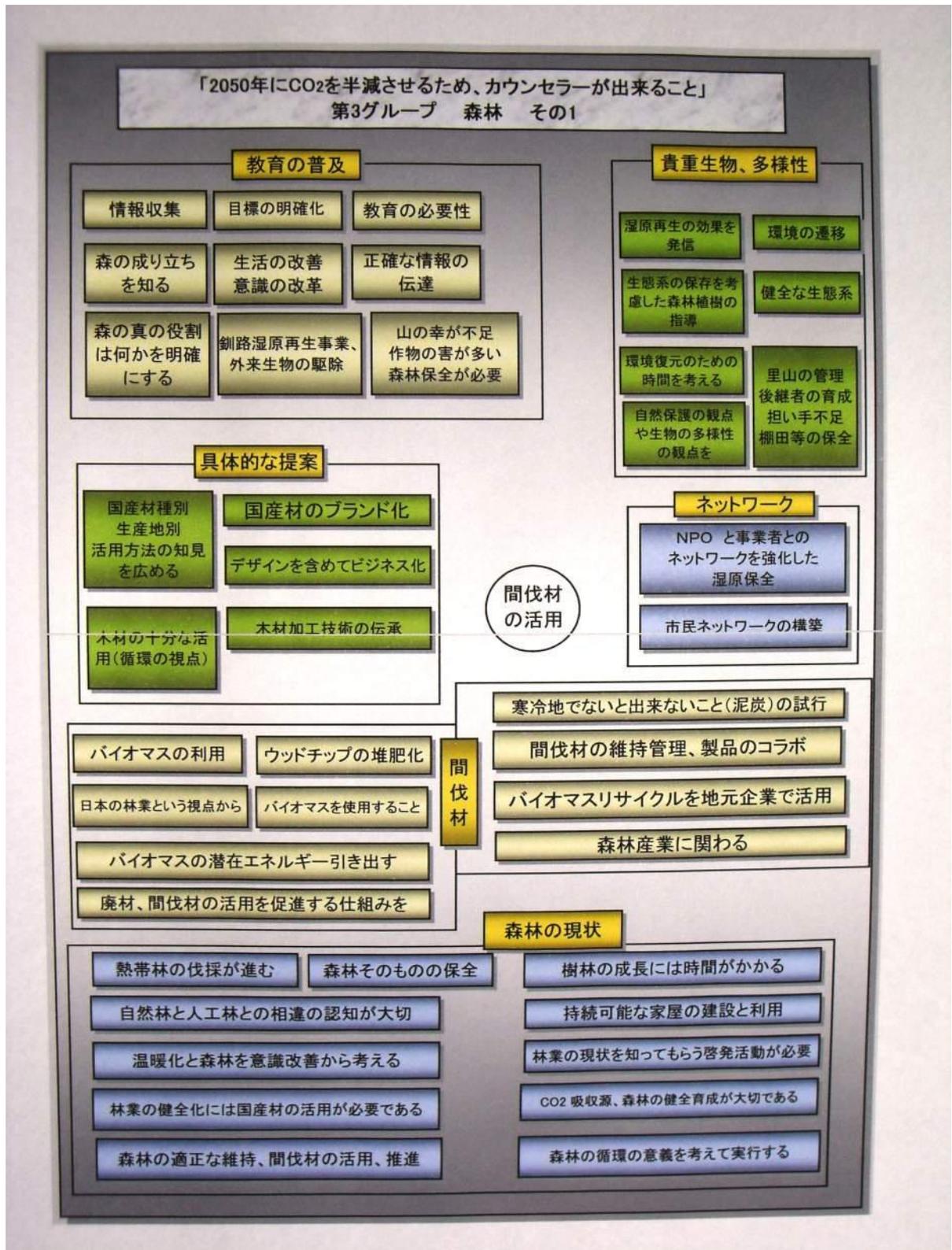
※各グループの図解は次ページから列挙する。



KJ 法図解 第2グループ「エネルギー」



KJ 法図解 第3グループ「森林」その1



KJ 法図解 第3グループ「森林」その2



16 : 25～16 : 35 アンケートの記入

16 : 35～16 : 45 閉会式<修了証交付>

全過程修了者 26名
受講者代表 稲葉 秀一氏



16 : 45 終了、解散

(6) 第2回検討会の開催

◆日時：平成20年11月25日(火) 15:00～17:00

◆場所：北海道環境パートナーシップオフィス

◆出席者：(敬称略)

(検討委員) 内山 到 (財団法人北海道環境財団 情報交流課長)

宮本 尚 (北海道市民環境ネットワーク 事務局長)

田中 裕紀子 (石狩キッズ 代表)

(主催者) 伊藤 正市 (環境省北海道地方環境事務所環境対策課 課長補佐)

今村 和典 (環境省北海道地方環境事務所環境対策課 企画係長)

(事務局) 藤田 郁男 (特定非営利活動法人北海道環境カウンセラー協会 顧問)

山田 剛義 (特定非営利活動法人北海道環境カウンセラー協会 理事)

(オブザーバー) 一口 芳勝 (特定非営利活動法人北海道環境カウンセラー協会 理事)

第1回検討会同様、当協会の藤田が座長となり、検討会を進行した。

◆議題：平成20年度環境カウンセラー研修のふりかえりと次年度への展開の検討

① 事務局より配布資料の確認

② 主催者より開会挨拶

全国7ブロックで開催し、12月10日の九州地区の開催をもって、本年度は終了である。

全国的な状況を見ると、本年度は、「温暖化」「生物多様性」「エコアクション21」のテーマが主流であった。環境省ホームページ等で全国の状況が掲載されているので、それらも踏まえながら、忌憚なくご意見を出していただきたい。



③ 事務局より研修当日の状況についての報告

- ・受講者 33 名。うち環境カウンセラー 29 名、一般聴講者 4 名。
- ・全体講演の前でやや予定より早まったが、基調講演から予定通りのスケジュールとなった。
- ・グループディスカッションについては、3 グループの人数配分をバランス良く行うことが出来た。
- ・アンケートの記入時間を設定したことにより、ほぼ全員の提出となった。

④ 事務局よりアンケート結果の報告

- ・アンケート提出者は 26 名であった。(途中入退室者 3 名は含まず)
- ・部門別受講者は市民部門 9 名、事業者部門 16 名、両部門 1 名であった。
- ・参加目的としては、自身のスキルアップがほとんどであった。
- ・プログラムについては、全体的には好評であった。
- ・全体講演「環境行政の動向」は内容も大きく、重大であるが、受講者の多様な活動から、意見もさまざまであった。
- ・基調講演「建物とエネルギー 北欧、西欧の対応と比較して」は身近なテーマであり、「建物の改築のポイントとしても興味ある」などと好評であった。
- ・講義「環境カウンセラー登録制度」については、環境カウンセラーの社会的な位置付けが欲しいとの要望があった。

⑤ その他フリーディスカッション (グループディスカッションに対する意見が中心)

- ・キーワード的な事項の列挙に終わり、まとまった意見になっていないように思われる。
- ・具体的な深まりはないが、多くの意見は参考になる。
- ・事前に KJ 法について、話し合いをもつことが必要ではないか。
- ・KJ 法を環境カウンセラーとしてのスキルアップにしてほしい。
- ・環境カウンセラーとしての役割が明確になっていないグループが多い。
- ・議論が整理されていない。具体的な方策が結論付けられなかった。
- ・2050 年を各テーマにおいて予測し、バックキャスト的思考で必要な行動意見を出してほしかった。
- ・主催者側としてのねらいを具体化して、討議前に説明することが大切ではないか。
- ・ファシリテーターは事前に決めていたようであるが、機能しなかったのではないか。
- ・「建物とエネルギー」の話は興味あるテーマであり、モデルを見てヒントを得たい。
- ・基調講演について、海外と日本との関係、比較をもっとはっきり説明してほしかった。事例紹介もどう違う、なぜ違う、それぞれの良さ、問題点など、焦点を絞ってほしかった。
- ・市民部門と事業者部門が連携して出来る事業などを議論してみるのも面白い。
- ・「学童保育」「地域学習支援」など、環境についての事業を立ち上げていく。
- ・講師選定については、道、市町村、団体などで謝金が補助されている。
- ・基調講演など、講師は地域の優秀な人材が多くいるので問題はない。
- ・次回に向けては、司会が具体的に指示していくことを考える。
- ・ディスカッションの手法について、事前に説明の場を設けるなどの工夫が必要である。

- ・外部にまとめ役をお願いしてはどうか？例えば丸山氏、高木氏など。
- ・環境カウンセラーとしての力量をつけるための研修のあり方を検討する必要もある。
- ・出されたいろいろな意見は今後整理し、議論の対象として使っていける。
- ・今回は時間も相応にとれたこと、グループ討議のプロセスにおいてある程度意思疎通も図られたことから、開催意義はあったのではないか。
- ・環境カウンセラー同士の活動交流、経験交流が更に出来るような工夫が必要と考える。

(7) 本事業の総括

以上、業務仕様書に基づき、平成20年度環境カウンセラー研修の企画・運営などを実施したところであるが、当協会において本研修実施に係る総括を次のように取りまとめた。本研修の次年度以降の実施にあたり、参考になれば幸いである。

- ① 基調講演の講師選定は、前年度に日程・内容など概要を絞り、推薦候補を当たっておく必要があるが、今回は講師の紹介、最近の活動（新聞掲載論文）などで、検討委員各位の了承をいただけたので、スムーズに打ち合わせが出来た。
- ② 環境カウンセラー研修は、3～5年の中期的計画で研修目標を設定して、資質の向上を図る必要があると考える。今回出された意見をキーワードにして、ディスカッションを行ってみるのも一考と感じた。
- ③ KJ法の説明時間を予めとってディスカッションを実施することで、結果も多少変わったと予想される。次回の課題であろう。司会進行を外部専門家へ依頼することも検討する必要がある。
- ④ 準備について用意周到に行ったつもりであったが、事務局としてより事前の協議・調整の必要性を感じた。
- ⑤ 遅ればせながら、多くの関係者のご協力が無事終了出来たことについて、心からお礼を申し上げたい。まとめや記録において、役員相互の連絡が十分でなかったことを反省している。
- ⑥ 講師候補を選定するにあたり、検討委員の多様な環境保全活動の経験から、多くの人材を推薦いただいたことは、環境カウンセラー活動をする上で今後の大きな財産になった。
- ⑦ 研修会場は札幌市環境プラザを利用したが、講師控室も設けることができ、大変スムーズな運営をすることが出来た。

卷末資料

資料 1 配布資料

資料 2 受講者アンケート集計結果

平成20年度環境カウンセラー研修



日時:平成 20 年 11 月 5 日(水)

場所:札幌市環境プラザ 2F 環境研修室 1・2

北海道地方環境事務所

目 次

平成20年度環境カウンセラー研修スケジュール……………	1
受講にあたっての注意事項……………	2
受講者名簿……………	3
ご講演者プロフィール……………	4
全体講演 「環境行政の動向について」……………	別紙1
北海道地方環境事務所	
基調講演 「建物とエネルギー 北欧、西欧の対応と比較して」……………	別紙2
佐々木博明氏	
講義 「環境カウンセラー登録制度について」……………	別紙3
北海道地方環境事務所	
平成20年度環境カウンセラー研修(北海道地区)アンケート……………	別紙4

受講にあたっての注意事項

1、受付について

- ① 本日の研修については、必ず受付で名前をチェックして、ネームカードホルダーに名刺を入れるか又はカード用紙に名前を書いて入れ表示して下さい。
- ② 座席については、自由にお座り下さい。
- ③ 研修に関してご不明な点は係員にお問い合わせください。

2、修了証について

- ① 本研修の全ての日程を修了した方には、閉会式において修了証を交付します。
- ② 半日受講者及び受講途中での退出者には、交付はいたしません。

3、研修について

- ① 午前のプログラムについては、申し込みのあった一般市民の聴講者も一緒です。
- ② 13:40 からのグループディスカッションは、申込時の希望テーマでグループを作ってください。3グループ内で、人数差があまりにも大きい時は事前に調整させていただきます。ご了承ください。

4、会場使用にあたっての注意

- ① 会場で弁当などの飲食はできますが、残飯などのゴミは各自責任を持って処分してください。周辺、駅地下街にも飲食店があります。
- ② 手荷物は、各自で管理してください。
- ③ 館内での喫煙は、各階の喫煙室(トイレ隣)のみとなっています。

受講者名簿

	登録番号	部門名	氏名	フリガナ	出欠	選択テーマ	備考
1	1996101003	事業者	小嶋 章夫	コジマ アキオ	○	エネルギー	
2	1996101005	事業者	関尾 憲司	セキオ ケンジ	○	森 林	
3	1996101011	事業者	吉迫 勝意	ヨシザコ カツイ	○	暮らし	ファッションライター
4	1996201006	市民	杉山 伸一	スギヤマ シンイチ	○	森 林	
5	1997101005	事業者	山田 剛義	ヤマダ タカヨシ	○	エネルギー	(カメラ)
6	1998201001	市民	藤田 郁男	フジタ イクオ	○	森 林	
7	1999201001	市民	岡崎 朱実	オカザキ アケミ	○	暮らし	
8	1999240004	市民	藤本 倫子	フジモト ミチコ	○	暮らし	
9	2000201002	市民	小林 正直	コバヤシ マサナオ	○	エネルギー	
10	2001101001	事業者	江本 匡	エモト タダス	○	暮らし	
11	2001101003	事業者	尾寄 耕策	オザキ コウサク	○	エネルギー	
12	20011010074	事業者	東 靖友	ヒガシ ヤストモ	○	エネルギー	ファッションライター
13	2001201004	市民	西村 睦子	ニシムラ ムツコ	○	暮らし	
14	2001201005	市民	横山 武彦	ヨコヤマ タケヒコ	○	森 林	ファッションライター
15	2002101002	事業者	大山 仁美	オオヤマ ヒトミ	○	エネルギー	
16	2003101004	事業者	佐藤二三男	サトウ フミオ	○	暮らし	
17	2003101005	事業者	高橋 修治	タカハシ シュウジ	○	エネルギー	
18	2003201003	市民	一口 芳勝	カズグチ ヨシカツ	△	-	(午前のみ)
19	2004201003	市民	福士 正明	フクシ マサアキ	○	森 林	
20	2005101002	事業者	伊藤 靖友	イトウ ヤストモ	○	暮らし	
21	2005101003	事業者	岩木 敏	イワキ サトシ	△	-	(午前のみ)
22	2005101005	事業者	野中 俊文	ノナカ トシフミ	○	森 林	
23	2005201002	市民	中田 光治	ナカタ コウジ	△	暮らし	(午後のみ)
24	2005201004	市民	牧 賢吾	マキ ケンゴ	○	森 林	
25	2006101002	事業者	藤田 佳久	フジタ ヨシヒサ	○	エネルギー	
26	2006101003	事業者	山澤 光弘	ヤマザワ ミツヒロ	○	森 林	
27	2006201001	市民	新保留美子	シンボ ルミコ	○	エネルギー	
28	2007101001	事業者	稲葉 秀一	イナバ シュウイチ	○	エネルギー	
29	2007101002	事業者	岡野 裕幸	オカノ ヒロユキ	○	エネルギー	

ご講演者プロフィール

佐々木 博明 氏

[現職] 北海学園大学工学部建築学科、大学院工学研究科教授（59歳、2008年10月現在）
学部では建築環境計画（温熱環境・設備分野）、大学院では寒地工学特論を担当

[履歴等]

- ・ 1949年（昭和24年）北海道生まれ 大学卒業後、東京で住宅メーカー技術開発部勤務
- ・ 1978年（昭和53年）から北海学園大学工学部建築学科 勤務
- ・ 1991年（平成3年）から1年間スウェーデン・ルンド大学留学
（ルンド大学工学部ゲストリサーチャー(研究員)として住宅換気システムの研究に従事）

[現在の研究テーマ]

- ・ 寒地住宅の温熱環境とエネルギー（ヒートポンプ暖房・給湯の研究、ローエネ住宅）
- ・ 気密化住宅の換気システム（寒冷地型換気システムの開発、換気メンテナンスの研究）
- ・ 室内空気汚染の対策（ホルムアルデヒドの現状とVOCの減少対策の研究）

[学会活動等]

- ・ 日本建築学会、空気調和衛生工学会、日本環境管理学会、室内環境学会に所属し、論文の発表を行っている。
- ・ 江別市都市計画審議会副会長、江別市建築審査会副会長
- ・ ヒートポンプ普及促進連絡会の主催（平成14年～）
- ・ 空気調和衛生工学会理事（平成17年～平成19年）

[表彰等]

- ・ 1988年10月 寒地技術シンポジウム技術賞受賞
- ・ 2000年1月 ビル管理教育センター会長表彰



写真

「建物とエネルギー 北欧、西欧の対応と比較して」

北海学園大学工学部建築学科

北海学園大学大学院工学研究科 佐々木 博明

【講演概要】

地球温暖化防止に向けて多くの試みが実施されている現状である。しかし、炭酸ガス排出割合が多く、現在でも増加を続けている建築（特に住宅）における対策が重要である。この部分の行政官庁である国土交通省は省エネ基準を作成し実施するとともに、建物の環境評価法も一昨年から運用され始めている。先進各国では既にこれらの評価法が実施されており、日本もようやく仲間入りを果たした状況であるが、一層の普及が必要である。

省エネ建築も、建物基準を満たすだけでなく、新技術を取り込み、暖房・冷房・給湯等の設備と一体となった実施が望まれる。環境を重視するヨーロッパでは早くからこれらに着目し、多くの実施例があるが、今回はスウェーデンとイギリスの先進事例を紹介する。一方、気象条件がヨーロッパ以上に厳しい北海道でも、一層の省エネによる無暖房住宅や、さらに発電を組み込んだゼロエネルギー住宅が建築され始め、実証の段階に来ている。これらの動向を紹介するとともに、寒地における建築分野の省エネ・環境対策の現状と問題を考える。

スライド 1

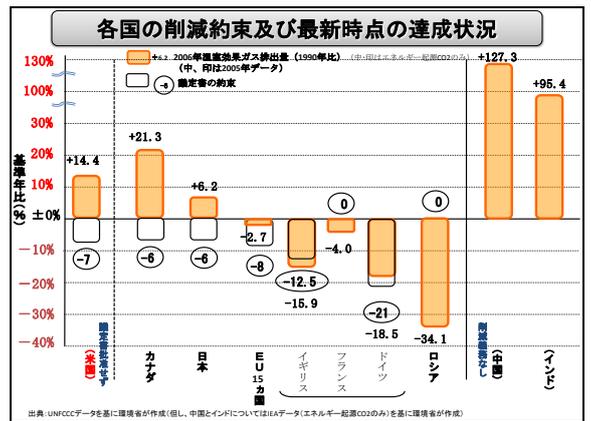
平成20年度環境カウンセラー研修資料

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイスタイル

環境行政の動向について

平成20年11月5日
北海道地方環境事務所

スライド 2



スライド 3

平成20年度の動き

- 1月 「クールアース推進構想」(ダボス会議での福田総理演説)
- 3月 「Cool Earth-エネルギー革新技術計画」(経済産業省発表)
- 3月 「改訂京都議定書目標達成計画」(閣議決定)
- 5月 「環境エネルギー技術革新計画」(総合科学技術会議決定)
- 6月 「低炭素社会・日本をめざして」(日本記者クラブでの福田総理演説)
- 6月 「温暖化対策推進法改正」
- 7月 「北海道洞爺湖サミット」
- 7月 「低炭素社会づくり行動計画」(7月29日閣議決定)

スライド 4

改訂京都議定書目標達成計画の骨子

目標達成のための対策と施策

1. 温室効果ガスの排出削減、吸収等に関する対策・施策
(1) 温室効果ガスの排出削減対策・施策
 ●自主行動計画の推進
 ●住宅・建築物の省エネ性能の向上
 ●プラント・機器等の対策
 ●工場・事業場の省エネ対策の徹底
 ●自動車の燃費の改善
 ●中小企業の排出削減対策の推進
 ●農林水産業、上下水道、交通流等の対策
 ●都市緑化、廃棄物・代替フロン等3ガス等の対策
 ●新エネルギー対策の推進

(2) 温室効果ガス吸収源対策・施策
 ●関係等の森林整備、美しい森林づくり推進国民運動の展開

2. 観測的施策
 ●排出量の算定・報告・公表制度
 ●国民運動の展開

以下、速やかに検討すべき課題
 ●国内排出量取引制度
 ●環境税
 ●深刻化するライフスタイル・ワークスタイルの見直し
 ●サマータイムの導入

温室効果ガスの排出抑制・吸収量の目標

	2010年度の排出量の目安 (注)	基準年 排出量比
エネルギー起源CO ₂	1,078~1,089	+1.2%~-2.2%
産業部門	424~428	-4.6%~-4.3%
業務その他部門	208~210	+3.4%~-3.6%
家庭部門	138~141	+0.9%~-1.1%
運輸部門	240~243	+1.8%~-2.0%
エネルギー転換部門	66	-0.1%
非エネルギー起源CO ₂ 、CH ₄ 、N ₂ O	132	-1.8%
代替フロン等3ガス	31	-1.8%
温室効果ガス排出量	1,238~1,252	-1.8%~-0.8%

(注)排出量の目安としては、対策が想定される最大の効果を上げた場合と、想定される最小の場合を設けている。当然ながら対策効果が最大となる場合が自然なものであるが、最小の場合でも京都議定書の目標を達成できるように目安を設けている。

温室効果ガスの削減に吸収源対策、京都メカニズムを含め、京都議定書の6%削減約束の確実な達成を図る

スライド 5

地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律について (平成20年6月13日)

現行温対法

- 京都議定書目標達成計画
 - 地球温暖化対策推進の基本的方向、各主体の役割を各対策等について定める
- 地球温暖化対策推進本部
- 国・都道府県・市町村の実行計画
 - 国・自治体が、率先して削減努力を行う計画を策定
- 温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度
 - 一定規模以上の事業所について温室効果ガスの排出量を算定し、国に報告すること義務付け、国がデータを互換し公表
- 京都メカニズムの取引制度(炭素クレジット)
 - 京都メカニズムクレジットの取引ルール、取引の保護
- (国・都道府県)地球温暖化防止推進推進センター
地球温暖化防止推進員

今回の法改正

- 排出抑制等指針の策定
 - 事業活動に伴う排出抑制
 - 高効率設備の導入
 - 冷暖房抑制、オフィス機器の使用合理化等
 - 日常生活における排出抑制
 - 製品等に関するCO2見える化推進
 - SRの促進等
- 削減時期・一定の市による地域の計画策定
 - きめ細かい取組を推進、他の地域計画との連携
- 事業者、フロンチャイブチェーン事業者での報告
 - 業務部門を中心に対象を拡大
 - ODNクレジット等の活用促進に配慮
- 森林CDMの活用のための手続を簡便など
- 一定の市による推進センター設置
- エネルギー供給や事業に伴うCO2排出量の見える化
- ライフスタイルの改善の促進等

スライド 6

環境・気候変動分野の成果

GBハイリゲンダム・サミットの成果

- 2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも半減することを真摯に検討
- 主要排出国を含む包括的な2013年以降の気候変動に向け、CO2削減への歩みを呼びかけ
- 主要排出国の会合(MEM)を2007年後半に主催するとの米国の申し出を歓迎

GB北海道洞爺湖サミットの主な成果

	GB	MEM (主要経済国会合) (GB+中、印、南ア、ブラジル、メキシコ、インドネシア、豪、韓)
長期目標	2050年までに世界全体の排出量を少なくとも50%削減するとの目標を、気候変動枠組条約の全締約国と共有し、同条約の下での交渉において、締約国が公平原則を考慮して、世界全体の長期目標を採択することが望ましい。	排出量削減の世界全体の長期目標を含む長期協力行動のためのビジョンの共有を支持。気候変動枠組条約の下での交渉において、締約国が公平原則を考慮して、世界全体の長期目標を採択することが望ましい。
中期目標	GB各国が自らの指導的役割を認識し、排出量の絶対的削減のための行動を実施。途上主要経済国は、対策をとりながら、先進国の排出量削減を達成するための、持続可能な開発の文脈で、技術・融資・知識・人材の提供に支援された国等の適切な協力の行動を遂行。	先進主要経済国は、中期の個別削減目標を実施し、排出量の絶対的削減のための行動を実施。途上主要経済国は、対策をとりながら、先進国の排出量削減を達成するための、持続可能な開発の文脈で、技術・融資・知識・人材の提供に支援された国等の適切な協力の行動を遂行。
セクター別アプローチ	各国の排出削減目標を達成する上でとりわけ有益な手法。また、エネルギー効率を向上し温室効果ガス排出量を削減するための有用な手法となりうる。	セクター別の効果性に関する緩和情報、分析の交換等を促進。協力的セクター別アプローチ、セクター別行動の役割を検討。
その他	○革新的技術のためのロードマップを策定する 国際的イニシアティブの立ち上げ ○気候投資基金の設立を歓迎・支持(既にGBメンバーは約60億米ドルの拠出をプレッジ)	○森林吸収源による除去量増加の行動が温室効果ガス安定化に貢献し得ることを認識 ○途上国の適応能力強化のために努力 ○技術の重要な役割、気候変動の必要性を確認

スライド 1

環境カウンセラー研修
札幌市環境プラザ：2008.11.5

建物とエネルギー・
北欧、西欧の対応と比較

北海学園大学工学部建築学科
佐々木 博明

スライド 2

地球環境問題(環境白書)

- 地球温暖化防止
- 化石燃料使用低減
→省エネルギー
- 環境との共生
→エコロジー推進
- 先進国ー開発途上国
- 高度な経済活動
- 化石燃の使用
- ↓
- サスティナブル (Sustainable)
持続可能な建築・住宅

スライド 3

京都議定書protocolの継承(2013年~?)

1997:COP3京都~京都議定書
2007.12.3:COP13/バリ島開催~バリロードマップ
2008.12:COP14 ポーランド

- 京都会議から10年/実行開始(2008年)
- 2002年実態ですすでに約8%UP:家庭+29%
- 1990年レベルの6%削減約束と合わせ:日本は約14%削減
2008年-2012年に実行困難! 中期対策と長期目標?
- 新たな枠組 洞爺湖サミット:2050年半減?

スライド 4

住宅の次世代省エネ基準
〈国土交通省〉1999年

〈I 地域・札幌 Sapporo〉

- ・年間暖冷房負荷 390MJ/m²・year
- ・熱損失係数 1.6W/m²・K(Q値)
- The coefficient of heat loss
- ・相当隙間面積 2.0cm²/m²(C値)

〈IV 地域・東京 Tokyo〉

- ・年間暖冷房負荷 460MJ/m²
- ・熱損失係数 2.7W/m²・K(Q値)
- ・相当隙間面積 5.0cm²/m²(C値)

スライド 5

建築の環境・省エネ動向1

〈国土交通省+経済産業省+環境省〉

- ・住宅の省エネ基準と設備機器の基準を含む新制度を構築中。
- 現在:住宅の次世代省エネ基準
住宅設備等のトップランナー方式
環境基準
- 平成20年度→住宅省エネ基準改定?
優遇税制や補助金の制度の検討

スライド 6

建築の環境・省エネ動向2

- CASBEE Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency
建築物総合環境性能評価システム
(各種 CASBEE 新築、既存、改修、ヒートアイランドetc)
- ①エネルギー消費 ②資源循環
③地域環境 ④室内環境
- ↑(Qクオリティ)と→L(ロード)で評価。S、A~Cクラス
- CASBEE 札幌 5000㎡以上の建物義務化
札幌市生活環境確保条例 2007年秋実施
- CASBEE すまい/戸建 (2007年9月25日運用開始)

スライド 7

諸外国の住宅・建築の環境評価

<北米>

- LEED(アメリカ),
Leadership in Energy and Environmental Design
- LEED-Canada(カナダ) or GBTool

<欧州/アジア>

- BREEAM(イギリス)
 - ECO EFFECT(スウェーデン)
 - Promis E(フィンランド)
 - CASBEE(日本)
 - GOBAS(中国)
- (村上周三他 CASBEE入門 日経BP社より)

スライド 8

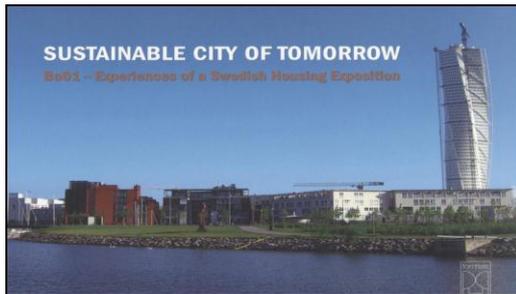
世界の新住宅建築動向

<世界では>

- スウェーデン: Bo-01, Bo-02,.....
- ドイツ: PV太陽光発電世界一(累積導入量)
- オランダ: PV団地(Nieuwland, Amersfoort市)
- イギリス: ゼロエネルギー住宅(BedZED)
- 日本:(北海道)?

スライド 9

スウェーデンのサステイナブル建築 Bo-02



スライド 10

BedZED London /UK (Beddington Zero Energy Development)



スライド 11

無暖房住宅 (千歳市 2006年)



スライド 12

ゼロエネルギー住宅(札幌 2008年)



スライド 1

平成20年度環境カウンセラー研修資料

環境カウンセラー登録制度について

平成20年11月5日
北海道地方環境事務所

スライド 2

1. 環境カウンセラーとは

環境カウンセラーとは、市民活動や事業活動の中での環境保全に関する専門的知識や豊富な経験を有し、その知見や経験に基づき市民やNGO、事業者などの環境保全活動に対する助言など(=環境カウンセリング)を行う人材として、環境カウンセラー登録制度実施規程に基づき、環境省の行う審査を経て登録された方々です。

① 依頼

環境保全活動をしたい
市民・事業者

② 指導・助言

専門的知識・豊富な経験

環境カウンセラー
4,528名
事業者部門2,538名
市民部門1,990名
(平成20年4月現在)

市民への環境教育 環境保全活動の推進 事業者への技術指導

↓

持続可能な社会の形成

スライド 3

2. カウンセリング活動の流れ

環境カウンセラー

① 依頼

登録者データベースから適切なカウンセラーを検索

市民・事業者

② 助言・支援

ニーズに合った適切なカウンセリングを行う

謝金・旅費などについては依頼者と相談して下さい。

スライド 4

3. 環境カウンセラー登録者検索について

操作手順

- ① 環境カウンセラーのページを開きます。
URL
<http://www.env.go.jp/policy/counsel/index.html> へアクセス
- ② 環境カウンセラー登録者検索画面が表示されます。
- ③ 「地域」「専門分野」「カウンセラー氏名」「経歴」「活動実績」「事業者部門 / 市民部門」の項目に条件を入力・選択し、検索します。
- ④ 検索結果が表示されます。
- ⑤ 検索された登録者の氏名をクリックすると、連絡先や経歴等を見ることができます。

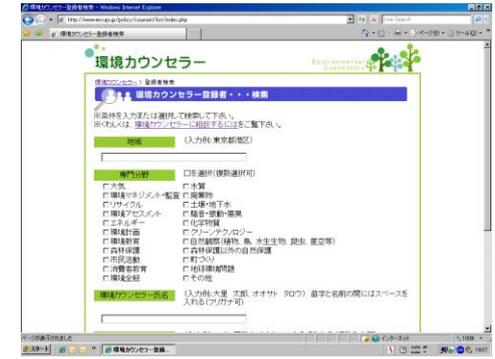
スライド 5

3-①

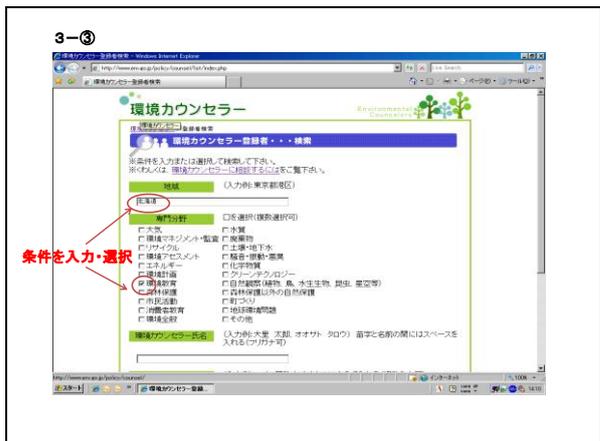


スライド 6

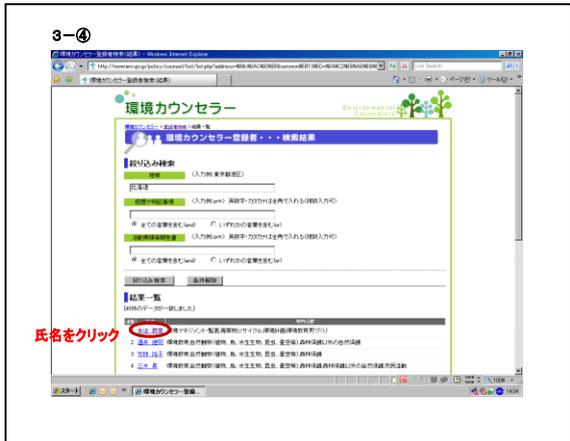
3-②



スライド 7



スライド 8



スライド 9



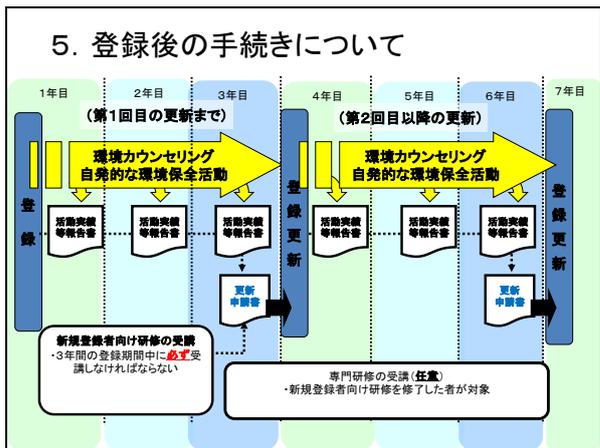
スライド 10

4. 環境カウンセラーに期待される役割

環境カウンセリング
 ・環境保全活動を行うおとする者に対して環境保全及び環境保全活動に関する知験の付与並びに環境保全活動に関する助言又は指導を行うこと
 (環境カウンセラー登録制度実施規程第2条)

自発的な環境保全活動
 ・地域の環境問題の把握・分析や環境保全活動の企画・実践、普及・啓発、あるいは活動団体の立ち上げ・運営、主体間のコーディネートなどのより幅広い役割を自発的・積極的に果たしていくことが期待されている。
 (環境カウンセラー登録制度に係る検討会報告「環境カウンセラー制度の推進方策について」より)

スライド 11



スライド 12

- ### 6. 登録後にやらなければならないこと
- 最初の更新までに、環境省の主催する環境カウンセラー研修を受講して下さい。
 一度受講した後は、任意で受講して下さい。
 毎年、環境カウンセラー全員に対して研修の案内を送付します。
 - 活動実績報告書を毎年提出して下さい。
 当該年の活動実績を、翌年の1月1日から2月末日までの間に提出して下さい。(平成20年度の場合、平成21年1月1日から2月28日)
 - 更新申請書を提出して下さい。
 登録の有効期間は3年です。該当する方は、平成21年2月13日までに提出して下さい。

スライド 13

7. 活動実績報告書の提出先

(1)提出先
財団法人日本環境協会 環境カウンセラー事務局

(2)報告方法（郵送または電子メールとなっております）

- ①電子メールで counselor-houkoku@japan.email.ne.jp
- ②郵送で 〒154 - 0001
東京都世田谷区池尻2-31-20 清水ビル5F

※ ウェブサイトで公開しますので、できるだけ電子メールにて提出して下さい。
様式はこちら(<http://www.env.go.jp/info/one-stop/03/005.html>)からダウンロードできます。

スライド 14

8. カウンセラーの方へのお知らせなど



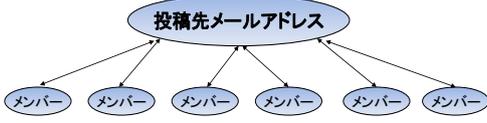
スライド 15



スライド 16

9. メーリングリストのご紹介

メーリングリストとは、メールを使って大勢の人とコミュニケーションすることのできるシステムのことです。



メーリングリスト使用上の注意

- ・メーリングリストは「不特定多数の人が参加する公の場」です。個人情報や特定の個人に関するメールはご遠慮ください。
- ・メーリングリストで送られてきたメールへの返信はご注意ください。返信しますと、全てのメンバーにメールが届いてしまいます。

スライド 17

10. 問い合わせ先

環境省 総合環境政策局 環境教育推進室

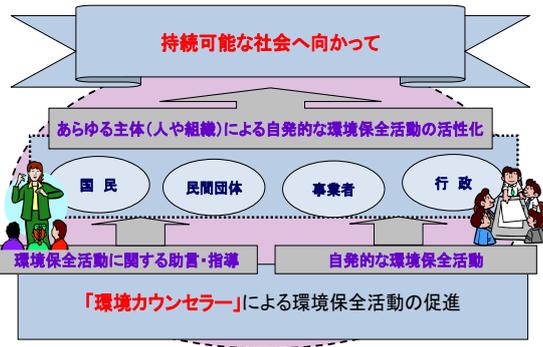
TEL: 03-5521-8231

Email : counselor@env.go.jp

(活動実績報告書の提出用アドレスとは異なります)

スライド 18

11. 制度説明のおわりに



スライド 19

環境カウンセラー活用施策(1)



NHK環境教育番組「ど〜する?地球のあした」ウェブサイトにて子どもたちからの質問の回答者として環境カウンセラーを紹介。

スライド 20

環境カウンセラー活用施策(2)



環境省「我が家の環境大臣」事業において、グループで登録されている方に対し、エコライフサポーターとして専門家(環境カウンセラー)を派遣して、講演会等を開催する制度。

講演・講義名など	内容について	講師について	時間について	具体的な感想があればご記入下さい
グループディスカッション 「2050年にCO2を半減させるため、カウンセラーが出来ること」				

4. 次年度の研修において、講義で希望するテーマや講師、ディスカッションで実施してほしいテーマ等ございましたら、ご自由にお書き下さい。

5. その他、本研修を受講しての感想をご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。アンケートは、お帰りの際、受付に提出して下さい。

なった。

- ・ 冗長でポイントが明確でないと感じました。
- ・ 最新情報の提供をお願いします。最近の変化等、もっと具体的内容をお願いいたします。
- ・ 低炭素社会の仕組みなどを示していただいたのは良かった。
- ・ 情報の出し方、発表の仕方を工夫してもらいたかった。
- ・ 日本の環境の取組の方向がよく理解できた。
- ・ 話し方が単調。もっときちんと説明してほしい。

② 基調講演「建物とエネルギー 北欧、西欧の対応と比較して」

北海学園大学工学部建築学科教授 佐々木 博明氏

	内容について	講師について	時間について
良かった	23	20	15
ふつう	2	3	8
良くなかった	0	0	0
未記入	1	3	3

具体的感想

- ・ 日本と対比した“建物とエネルギー”についてよく理解できたし、新しい情報が入手できた。一部知っている内容についても、その中身が理解できた。建物とエネルギーについてあらためて考えさせられた。
- ・ 参考になりました。
- ・ 住宅/環境という身近な関連で知識を得られた。
- ・ 分かりやすい説明で理解しやすかった。
- ・ 住宅の省エネに関して、多くの新しい情報を知ることができ、有意義でした。
- ・ 専門外のことだったので、大変面白かった。
- ・ 建物をテーマに省エネやエコロジー推進の視点で、北欧や西欧での取組は新鮮で視野が広がった。
- ・ 北欧・西欧の対応と比較してのお話はとても良かったです。個人的には北欧に学ぶ事が多いと思っています。
- ・ まさに「専門的知識」の知見を広げる内容で良かった。
- ・ 建築を環境の側面から、課題と現状について分かりやすく話してくれて良かった。

③ 講義「環境カウンセラー登録制度について」

北海道地方環境事務所環境対策課 今村企画係長

	内容について	講師について	時間について
良かった	11	11	11
ふつう	13	12	12
良くなかった	0	0	0
未記入	2	3	3

具体的感想

- ・ よく理解していなかった点を知ることができた。
- ・ 一般の人々に対しても適切に PR を図って欲しいと思います。
- ・ カウンセラーの社会的な位置づけが欲しいですね。

④グループディスカッション 「2050 年に CO₂を半減させるため、カウンセラーが出来ること」

	内容について	時間について
良かった	20	18
ふつう	3	3
良くなかった	0	1
未記入	3	4

具体的感想

- ・ 立場の違う人たちと話すことは、様々な情報、考え方が分かり良かった。
- ・ ディスカッションの時間が確保されていて、良い学習機会であった。
- ・ 時間が短いと思います。
- ・ 時間の制約上概況の議論ではあるが、良い勉強になりました。
- ・ テーマ範囲が広すぎる。大きすぎる。世界全体の方向が未だ定まっていないので、無理があるのではないか。
- ・ 話し合いが非常に楽しかった。10 年前に帯広にてお会いした藤本さんに札幌で再会できた事は、大きな喜びであり感謝でした。
- ・ もっと全体討議を行って良いのではないか。
- ・ 十分な時間が確保されたため、論議が深まった。今回は時間的にちょうど良かった。
- ・ これくらいの時間はやはり必要だと考えます。
- ・ 各グループが発表された内容は、幅広く社会全体の理解、連携が大切と感じた。
- ・ 各グループの発表も議論の中身が分かり良かった。
- ・ 各カウンセラーの自己紹介の中で、活動のあらましを述べていただいたが、十分時間がとれなかった。名簿の備考欄にでも各カウンセラーの居住市町村でも記載されているとうれしいのですが。

4. 次年度の研修において、講義で希望するテーマや講師、ディスカッションで実施してほしいテーマなど、自由意見。

- ・ 国、道の環境行政の最近の変更点とその動き等を紹介してほしい。
- ・ 水質、水源保全、森林整備、育成活動運動をしている方の講義など。(同意見二人あり)
- ・ 生ごみの堆肥化について
- ・ 地球環境問題について
- ・ 可能であれば本省の方を招へいしてほしい。
- ・ 異常気象—地球温暖化について、(財)日本気象協会の方などの講師のお話があると良い。
- ・ 本年度のように、別分野からの新しい知見が得られるものが良い。
- ・ 本年度に習って行って下さい。

- ・ 本年度のテーマで良いと思います。
- ・ 全国で展開されている「環境活動」の先進事例があれば、テーマとして取り上げて下さい。

5. その他、本講習を受講しての感想

- ・ 遠方より参加致しました。10回目の受講を経験し、何か1つでも役に立つことがあればと場所、内容を選び各地へ参りました。自分なりに環境に関する勉強を奉仕として参りました。今回、CO₂と建物に関する勉強ができました。
- ・ 年1回の研修ですので、参加目的に5点掲上されていますが、やはり最新の情報等を学ぶだけでなく、常に基本に立ち返って「環境カウンセラー」の果たすべき役割や、環境問題の本質を念頭においた、未来社会への責務をきちんと踏まえた研修であってほしい。
- ・ 参加してとても良かった。特に、基調講演は話し方もとても聞きやすかった。
- ・ 今回はスタッフの一人として参加できて良かった。報告書作成にも参加したいと思います。
- ・ 大変素晴らしい内容でした。会員の環境問題解決のために努力して下さい。
- ・ もっと参加者が増えるように、毎年参加を義務づける等、制度の見直しをした方が良い。
- ・ いろいろなご意見や講演は、大変参考になりました。情報収集の場として継続願います。有難うございました。
- ・ 他地区のカリキュラム内容も魅力的な項目があります。参考にしても良いのでは。
- ・ 昨年よりディスカッションの時間が長くなった分、良かった。(同様な意見が多い)
- ・ カウンセラー仲間と話し合いができたことは、これからもカウンセラーとしてやり続ける勇気が湧き出てきました。
- ・ お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・ スキルアップのためにも良かったです。自分自身の視野が広がった。
- ・ 会場がとても寒かった。
- ・ 若い人達が多く参加できるようになるとよい。次回が楽しみ。他地区の研修も受講してみたい。

平成 20 年度北海道地方環境事務所請負業務
平成 20 年度環境カウンセラー研修企画検討等業務実績報告書

2008 年 12 月

特定非営利活動法人 北海道環境カウンセラー協会
〒063-0801 札幌市西区二十四軒一条 5 丁目 1-2-705 環境経営オフィス気付
TEL 011-633-3306 FAX 011-633-3306
URL : <http://www.heca.name/>
